

OPINION

中部経済新聞

ネパールは各種の課題を克服すれば、多種多様なチャンスがあるといえます。コロナ禍後、再び活性化した観光産業では、エベレストやアンナプルナだけでなく、エコツーリズムやアドベンチャーツーリズムが新たに芽ぶいて、

ナヒゲーター

想や医療ツーリズムのハブになる可能性を秘めます。広大で未開発の水力発電資源は、自給自足だけでなく、外国からの投資や技術提携次第では、近隣諸国への電力供給源となる可能性も秘めています。

日本への期待
世界各地から

71

加えて、若く新技術に精通する労働力に裏付けられる新興IT産業とビジネス・コンサルティング産業は、適切な教育訓練とインフラ整備によつて、ITと経営サービスの有望な地域センターとしてわが国を位置付けるでしょう。これらの産業分野は総じて、国家経済に活気ある未来を約束します。

日本の投資家は、とくに水力発電、観光、教育、インフラ分野で有利なチャンスを見いだすことができます。耐震建築や再生可能エネルギーに

社会経済の現状と挑戦

ネパールから(下)

強い日本の技術は、ネパールの産業開発目標を補完し、持続可能な観光に関する日本の専門知識はネパールの観光産業を強化するはず。しかしネパールの官僚的で抑圧的な状況を理解することが成功の鍵となります。

日本がネパールのインフラや保健医療への支援に長年携わってきたことや、伝統、地域社会、調和を重視する文化的な深い結びつきが、信頼でヤ・ダイナステイ(Ajya Dynasty)やDELIC REDAネパールがその代表エンズと勤勉さに加え、この

前者は、フィンランド人デザイナーのアンナと共同設立されましたが、職人技術を活用してESGに準拠した高品質製品を製造し、全世界的な評価を得ています。後者は、ドイツの専門家アンドレ・シユタインボンと共同設立された、貿易と信管理と保険で先駆的な役割を果たしています。これらの事業はネパール経済を強化し、持続可能で倫理的な事業のベンチマークとなつていて、ネパールを国際舞台で大きく前進させています。

結論としてわが国は、経済成長と社会的公正、環境の持続可能性、政治的安定のバランスを取ることが必要です。

インドと中国という二つの経済大国にはさまれた戦略的立地が、ネパールの地政学的重要性を高めています。国際的な関係者にとって、複雑な社会経済的モザイク模様を理解することは不可欠です。この国の前途には、国内改革と諸外国との友好的な協働関係の融合が必要です。そこで日本のような国が、極めて重要な役割を果たすことができるはず。こうした課題と機会を乗り越えたとき、それはこのヒマラヤの国の回復力と潜在能力の証となるでしょう。

【ローシャン・クマール
リーム中産連】
(月曜日に掲載)